十文字学園女子大学・短期大学部
# The Jumonji Press
新座だより
No. 37
2012.2

## 特報　8つの研究所が始動！
### ～地域貢献、学生への還元を目指して～

06▸学生記者が行く　第45回桐華祭　笑（わっはっは）～人生笑ったもん勝ち～
09▸科目ラインアップ　6つの冠講座を開講
10▸若桐会だより　同窓会 部会創立35周年
12▸新着トピック　国際交流レポート　日本文化理解特別講座／本学初 中国へ短期留学
14▸十文字ニュース　タイ研修で深めた絆／平成23年度名誉教授　etc.
18▸公開講座レポート＆入試情報

## Spotlight on Campus
平林寺訪問 ～キャンパスを飛び越えて～

### 新座の名刹　平林寺・松竹老師にインタビュー

# 私たちに何ができるのか

十文字学園女子大生がつくる「地域密着フリーマガジン」第2号

### 自分も他人も分け隔てなく大切に

2011年11月3日（木・祝）、本学学生が制作する地域向けフリーペーパー『ナチュライフ十文字』の記者・天羽洋子さん（コミュニケーション学科2年）、伊藤佳菜さん（メディアコミュニケーション学科1年）が平林寺の松竹寛山（まつたけかんざん）老師を訪ね、東日本大震災を経て「私たちに何ができるのか」、若い女性の生き方についてインタビューした。

松竹老師は、禅の修行に触れながら「まず自らの本心に問いかけなさい」「相手と喜びや悲しみをともにしなさい」「自分も他人も分け隔てなく大切に」などと語りかけた。

また、インタビューには、東日本大震災で被災し、避難先として提供された都営住宅から通学している、福島県浪江町出身の松﨑沙織さん（人間発達心理学科3年）が特別参加し、感想を寄せてくれた。

詳しい平林寺・老師のお話については『ナチュライフ十文字』No.2に掲載されています。ご希望の方は、大学・企画室までお問い合わせください（kikaku@jumonji-u.ac.jpまで）。

左から伊藤さん、天羽さん、松﨑さん。

REPORT
人間発達心理学科3年
松﨑沙織さん

### すべての物事には意味がある

初めて平林寺を訪れましたが、紅葉がとてもきれいで、本堂の一室からの光景は、まるで自分の家にいるような心地よさを感じました。

平林寺や仏教について無知な私に、松竹老師はとても柔らかい物腰で一から教えてくださり、そして話を聞いてくださいました。

中でも一番印象深いのは、「すべての物事には意味がある」という言葉でした。それまでの私は、悲しいことや辛いことがあると「なぜ自分ばかりが」と責めることしかできませんでした。しかし、すべての物事に意味がある、と考えていくと、新たなことに気づくことができました。

例えば、昨年の未曾有の大地震。辛い出来事でしたが、「家族の存在」や「帰る家があること」など、普段は考えなかった当たり前のことが、とても幸せなことであると気づいたのです。

私はそれからこの言葉を常に心に留め、何かあると「そこにはどんな意味があるのだろう」と考え、自分の行動や生活に生かすようにしています。

短い時間ではありましたが、松竹老師との対談で、今までの考え方が変わり、自分を深く見つめることができるようになりました。

### 編◆集◆後◆記

第45回桐華祭は大盛況のうちに幕を閉じ、学生が地域の方や来校者と交流を深める貴重な機会となりました。今号の『新座だより』では、桐華祭を振り返るほか、8つの研究所の活動に注目。どの研究所も学生との関係性を密接にすることで、研究を学生のキャリアアップにつなげるとともに、そこでの学びを地域・社会へアウトプットすることを目指しています。また、今年の冠講座は、1人でも多くの学生に意欲をもって受講してほしいと思います。（水野 遥：編集長）

新座だより第37号　2012年2月21日発行
発行人：岡本英之（企画室長）
編集長：水野 遥　監修：大西正行
編集総務：三野裕子　編集事務：篠原 梓
発行：十文字学園女子大学・十文字学園女子大学短期大学部・十文字女子大附属幼稚園
〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28
Tel. 048-477-0555（代表）

＊『新座だより』へのご意見・ご要望は、kikaku@jumonji-u.ac.jpまで。

表紙の写真　上：平林寺を訪問　下左：「メディア産業研究所」主催、アナウンサー有吉都さんの講演会　下中央：避難訓練　下右：留学生別科「日本文化理解特別講座」

# 8つの研究所が始動！

## 地域貢献、学生への還元を目指して

外に開かれ、研究者だけでなく学生も活用できるシンクタンクを目指して、
昨年立ち上がった本学の8研究所が、本格的に始動した。
地域・社会への貢献、教育への還元を意識し、
研究テーマを深める一方、学生のキャリアアップなどを
後押しする母体としての活動が際立ち、
いわゆる「象牙の塔」のイメージから脱した研究所の輪郭が見えてきた。
現場の実践力を重視する十文字型「研究所」の発足10カ月を追う。

## 開かれた空間の実現へ 研究所に大きな期待

十文字学園女子大学
学長 横須賀薫

長い間、本学の研究所は女性学関係の2つに限られ、関係する人々も固定されていました。研究所の公開講演会に動員されるのでなければ、学生にはあまり関係がない空間でした。

そういう現状を打破するため、平成23年度に新しい研究所の設置を公募したところ、幸い8つの研究所がスタートすることになり、今後の活動に期待しています。

旧帝大などの大規模大学の研究所は研究中心であり、研究仲間は別として一種の閉鎖空間となっています。しかし、本学の研究所が目指す姿は違います。学生に開放され、学科とは性格の違う、もう一つの学習空間となることが大切だと考え、さらには卒業生たちの集う場となることも期待しています。

## Laboratory Activities & Research Progresses 研究所活動報告

＊掲載は50音順

### アジアの栄養・食文化研究所

研究代表者 山本茂教授

#### アジア各国から賛同を得て 糖尿病・肥満問題の解決へ

思春期の子どもの1日あたり糖質摂取量は、アメリカでは約120gとの報告があるが、日本を含むアジアには糖質の成分表がなく、これまで摂取量を計算できなかった。当研究所では、台湾と日本において初めてとなる成分表を作成し（論文報告済み）、中規模の栄養調査で子どもたちの摂取量を求めた。すると、台湾では50g、日本では30g程度と、同じアジアでも差があり、日本はほぼ適正な範囲にあることがわかった（国際誌受理済み）。

また、台湾、日本ともに飲料からの摂取量が最も高いことや、糖質の種類などもわかった。国によって大きな差が生じる事象について、食文化、食嗜好の形成時期といった研究から明らかにしていくことは、世界中の糖尿病や肥満問題の解決に貢献できると考える。

研究所の活動方針に日本の数社から賛同を得て、ベトナムのハノイ大学医学部、タイのマヒドール大学をはじめ、アジアの数大学や栄養研究所で研究基金や研究所の設立が動き始めている。

（山本茂 記）

含硫アミノ酸とカルシウム利用に関する研究の被験者と。

ベトナムの野菜売りの様子。

### 教職教育研究所

研究代表者 増田吉史副学長

#### 問題山積の教育現場を支援 児童教育学科第一期卒業生が来校

文部科学省の中央教育審議会の諮問会議で「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」が取り上げられ、「教員の資質能力向上特別部会」が設置された。本研究所では、このような最新の情報や資料を収集していく。

また、公立学校教職員の人事行政の状況は厳しく、1年足らずで退職する新採教員の増加、小学校現場での業務の多忙化、子どもや保護者との関係からくるストレスなど問題は山積みだ。そんな中で、本学児童教育学科の第一期卒業生が平成23年度4月から小学校教員として教壇に立っている。本研究所は、彼女たちを支援するだけでなく、本学近隣小学校などの教育研究を支援するための実践的研究も視野に入れ、所長の横須賀薫学長を筆頭に教育研究所として誕生した。第一期卒業生は昨年10月に集い、教員になってからの半年の取り組みを報告したり、現職小学校教員から助言を受けたりして、次回以降の開催に期待を寄せた。

（増田吉史 記）

所長の横須賀薫学長が挨拶。現職小学校教員も参加。

児童教育学科の第一期卒業生。

# 十文字こと・女性と教育研究所

研究代表者 亀田温子教授

## 女性のキャリア支援における女子大のあり方を模索

本研究所では、学園の創設者である十文字こと先生の生き方や建学理念にかかわる研究を行い、それを大学の特色ある教育へと展開できるよう活動を行っている。活動の1つとして、今年で第3回目となる『「わたしと建学理念」作文コンクール』を実施。1、2回目は在学生から作品を募ったが、今回は卒業生からも応募いただき、本学の理念や教育が卒業生にとっても大きなものであるとあらためて感じた。受賞した作文は冊子に載せ、学生や学園関係者に配布する予定だ。

昨年9月には、昭和女子大学客員教授の福沢恵子さんをお招きし、「女子大学が取り組むキャリア支援と大学将来像」について研究会を開催。女性の職業進出が進む今、卒業生の再就職支援も含めたキャリア支援をすすめる日本女子大学、昭和女子大学などの先行事例を紹介いただいた。今後、女子大学が女性の生涯にわたるキャリア支援を行うことは、こと先生の建学理念ともつながり、重要だと捉えている。皆様からもご意見などお寄せいただきたい。

（亀田温子 記）

「わたしと建学理念」作文コンクールの表彰。

# 身体運動の発達・学習研究所

研究代表者 平田智秋准教授

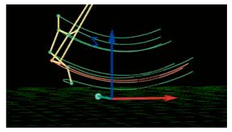
## 運動時の身体の使い方を分析 子どもの運動遊びを科学する

本研究所は素朴な運動の発達・学習過程について、心理学や教育学、物理学など複数の学問領域から研究している。現在、専用の計測カメラを用いて、運動中の身体の使い方を解析している。いずれは運動遊びの「コツ」を同定し、子どもたちが運動遊びを円滑に体得するための基礎資料を得ようと考えている。

左の写真が実験風景とデータである。鎖の長さが異なる3種類のブランコを使って、ブランコの一往復にかかる時間（周期）や身体の動かし方の変化を解析した。そしてこの周期はガリレオ・ガリレイが発見した「振り子の等時性」という物理則に従うことがわかってきた。つまり誰が漕いでも、ブランコの周期は鎖の長さで決まる。さらに身体の動かし方をみると、上半身を倒したり起こしたりする周期も「振り子の等時性」に従っていた。つまり私たちはブランコが揺れる大きさやタイミングを感じ取り、身体の動きを繊細に調整しながらブランコを漕いでいるようである。

（平田智秋 記）

身体の関節に反射マーカーをつけてブランコ漕ぎを解析。



専用のカメラで撮影し、ブランコや身体の動きを詳細に検討。

# 少子高齢・人口減少社会生活研究所

研究代表者 宮城道子教授

## 高齢者の生活スタイルと少子化の課題を多面的に研究

本研究所は、1983年に「十文字学園女子短期大学高齢者問題研究会」として共同研究を始め、2011年度、本学の教育体制改革にともなって「少子高齢・人口減少社会生活研究所」として生まれ変わった。本研究所では、高齢者の生活に焦点をあて、総合的・多面的にアプローチすることで、積極的・能動的なライフスタイルの提案、そのための支援策を提案・実践してきたが、今後はさらに人口減少社会における新たな生活課題について、学際的な研究交流を目指している。昨年に開催した研究会は次の通りである。

■第1回／6月18日（土）
「せいかつの図鑑」から学ぶ」
（講師：流田直教授）
実体験がないため図鑑が必要な子どもたちの現状、地域ごとの文化の多様性をどう守るかについて講演

■第2回／7月23日（土）
「園芸療法と認知症予防に関する研究会」
（講師：杉原式穂氏）
園芸療法の概要説明と、実地体験

■第3回／10月8日（土）
「食の街道をいく」（講師：向笠千恵子氏）
鯖街道・砂糖街道・ぶり街道など、食物によって栄えた街道について公開講演会

（清水玲子 記）

フードジャーナリスト・エッセイストの向笠氏の講演。

# 働く女性のための産業保健ラボラトリー

研究代表者 田中茂教授

## 将来を深く考えるきっかけに 産業界と連携したキャリア支援

本研究所は、就職活動や働く上で役立つ情報を学生に提供するため、設立した。平成23年度の活動は次の3つ。

■第1回講演会（参加学生250名）
10月22日（土）「幅広い職業人の育成を目指して就職に活かそう」
［講師］幼児教育学科・齋藤麗子教授／對木博一 非常勤講師／川崎医療福祉大・田口豊郁学部長／中災防・三觜明氏／郡山健康科学専門学校・藤原孝之学校長
10月23日（日）「業務用厨房における労働安全衛生の問題を解決する」［講師］イカリ消毒（株）・塩田智哉氏／サンケンビジネスサービス（株）・高橋綾氏／アイビス（株）・橋本絵里氏／食物栄養学科・名倉秀子教授

■第1回特別講義（参加学生30名）
12月6日（火）「衛生管理者の仕事について」［講師］イーグル工業（株）・吉川智明氏

■第2回特別講義（参加学生75名）
12月20日（火）「就職活動に役立つ」
［講師］本田技術研究所・澤田等氏・堤いづみ氏／（株）リコー・遠藤祐一氏／三菱化学（株）武田繁夫氏／サンケン電気（株）・嶋内功氏・高橋綾氏／古河電池（株）福島直氏／イカリ消毒（株）亀澤一公氏／埼玉県健康づくり事業団・椎名隆夫氏／DNP（株）濱一裕氏／（株）ニコンビジネスサービス・對木博一氏

（田中茂 記）

特別講義「就職活動に役立つ」で記念撮影。

# 食・栄養・健康研究所

研究代表者 志村二三夫副学長

## 食の安全確保を目指し 健康と食・運動の関連性を解明

本研究所は、栄養学を基盤とする食・健康関連分野の学術研究を行っている。本学の人的・物的資源を活用し、また、学外の研究者とも連携しながら、教育・研究の一層の活発化を図り、若手教員の研究を支援することにも力を入れている。今の日本が抱えるさまざまな健康問題における食・運動のかかわりを明らかにし、食の安全を確保することはとても大切である。そこで、レギュラトリーサイエンス（評価科学）という新しい学問分野の考え方を取り入れて、食の有効性・安全性の科学的根拠の創生を目指し、動物実験や人対象試験などの手法で課題に取り組んでいる。

具体的な課題は、「α-リポ酸・リグナン等の生体脂質低下作用の機構解明」「食品中の抗糖尿病因子の解明と利用」など。

設置してまだ1年に満たないが、地道な活動のおかげで、国際的に通用する研究成果に結びつきそうな知見が少しずつ得られてきている。学術成果を集積させ、栄養の実践活動に役立つ形で社会還元・貢献につなげたい。

（志村二三夫 記）

食物アレルゲンタンパク質の実験風景。鳥類卵白タンパク質の研究ツールとなるモノクローナル抗体の作成の一コマ。

# メディア産業研究所

研究代表者 橋本ヒロ子副学長

## 「十文字メディア会」が発足へ OGと研鑽・交流の受け皿に

メディア産業研究所は、「現場力を重視したメディア教育の研究」「メディア部門就職とOG支援」などを具現化するために立ち上がった。

新聞、雑誌、ラジオ、テレビのマスコミ4媒体はもちろん、広報、広告、映像、音楽分野など、メディア産業全般を視野に入れ、「教育内容・方法の研究」「メディア系冠講座の開拓と支援」「本学からの発信機能充実」を目指している。橋本ヒロ子副学長を研究代表者とし、実務・研究者教員を核にキャリアセンターや法人関係部署も活動を後押し。研究テーマの議論を重ねる一方、ニュース検定の実施や日本映像事業協会に加盟し、学生の就職開拓を推進中である。

昨年秋には、本学OGでRKC高知放送アナウンサー・有吉都さんの講演会を開催。同時にメディア関連企業で働くOGとメディア業界へ就職を希望する在学生、研究所教員が本学に集まり、親睦・研鑽・交流の受け皿として「十文字メディア会（仮称）」の発足準備会を開いた。24年度の冠講座のけん引役としても成果を上げている。

（大西正行 記）

「十文字メディア会」発足準備会。

Catch the News

学生記者が行く

笑 ～人生笑ったもん勝ち～

# 第45回桐華祭
# たくさん笑った2日間を思い出の1ページに

十文字学園女子大学の学生が日頃の学びや活動の成果を発表し、多くの来校者とともに盛り上がる秋の一大イベント「桐華祭」。昨年も10月22日（土）・23日（日）の2日間にわたって開催されました。

## 大盛り上がりの2日間 115の団体が発表

第45回桐華祭のテーマは、「笑（わっはっは）～人生笑ったもん勝ち～」。32の飲食団体、83の文化展団体の展示やフリーマーケットなどを開催。2日間で7840名が来校し、キャンパスは大いににぎわった。

学生たちは、この日のために忙しく過ごしてきたことも忘れてしまうほどの、とびっきりの笑顔で来校者をお出迎え。祭の雰囲気を楽しんだ。また、スポーツジャーナリスト・中西哲生氏の講演会や、カナリアやノンスモーキンのお笑いミニライブ、俳優・三浦翔平さんのトークショーといったイベントも大盛況。

「学園祭を通じて思い出に残る笑顔の1ページをつくってほしい」――そんな桐華祭実行委員の思いは、学生・来校者の方々の心に響いたのではないだろうか。

## 「笑うことで前向きに」大切なメッセージを発信

「本学の学生をはじめ、先生、地域住民の皆さま、来場してくださったすべての皆さまに笑って過ごしてほしいという思いを『笑（わっはっは）～人生笑ったもん勝ち～』のタイトルに込め、1年間かけて準備してきました。この桐華祭を笑顔の思い出として心に刻むことができたのではないでしょうか」

23日の夕方、エンディングセレモニーで舞台に上がった桐華祭実行委員会・櫻井育委員長はそう挨拶し、準備を進めてきた委員や参加団体をねぎらった。

189名の実行委員と100団体以上の参加者が力を合わせた第45回の桐華祭は、今年も多くの来校者を迎え、大成功をおさめて閉幕した。「震災や不景気に負けず、笑うことで前向きに過ごしていこう」というメッセージを届けた2日間となった。

（取材・文：水野遥編集長　写真：上柿茜記者）



Close up 会場点描

## 個性豊かな飲食店

### ゼミの学びがつまった十文字発フードメニュー

食物栄養学科・小林ゼミは、にんじんを使ったスイーツのお店「食栄みちこのにんじん洋菓子店」を出店した。小林ゼミでは、新座市の青年農業者組織と連携し、地場野菜を活用した料理を開発しており、にんじんホワイトチョコケーキとにんじんしっとりケーキの2品を販売。当日に向けて10回以上も試作を重ねてきた甲斐もあり、屋台は長い行列ができるほど大人気だった。

小麦アレルギー対策として米粉の代用について研究する食物栄養学科・小谷ゼミは、米粉ドーナツを販売する「スミドの焼きド」を出店。プレーン、抹茶、ココアの3種類のドーナツは米粉特有のもっちり感が楽しめる上、揚げない製法で低カロリー。売上金は日本栄養士会に寄付された。

また、コミュニケーション学科・橋本ゼミの学生が販売した「国際協力ラーメン」は昨年に続き完売！　ネパール女性の就学率向上を目指し、女性教員育成を支援する「ネパール女性教育協会」に売上金の一部を寄付した。

（取材・文・写真：今井友里子解説委員、小林いずみ解説委員）

（上）「国際協力ラーメン」のブース。（左）「食栄みちこのにんじん洋菓子店」。（下）焼きドーナツのプレーン味。

## 中西哲生氏のスポーツ講演会

### サッカーが教えてくれること

元Jリーガーでありスポーツジャーナリストの中西哲生氏を講師に迎え、「サッカーとスポーツの未来～スポーツと社会のつながり～」をテーマにお話しいただいた。「選手である以前に一人の大人として立派な選手であり、ファンやサポーターに夢や感動を与えられる選手であることが何より大事である」「サッカー教室の子どもたちとしている約束は『挨拶をすること』『返事をすること』『お礼を言うこと』」など、中西氏の人柄が伝わる興味深い講演に、来場者は熱心に耳を傾けていた。

## コミュニケーション学科「Ecoだっち」

### できることから始める節電対策

コミュニケーション学科・田総ゼミでは毎年環境問題について発表しており、今年は「節電」をテーマにした「Ecoだっち」の展示を行った。

学生たちは、東京駅周辺、お台場、キリンビール工場などの人が集まるところや、夜間に機械を運転する工場の現状を調査。特に人が集まるところでは、積極的に消灯されていたり、空調が高めに設定されていたりと、肌で「節電」への取り組みを感じた。また、研究を通して、「節電は無理矢理ではなくできることからコツコツと行っていくことが大事だ」と気づいたという。

（取材・文・写真：小林いずみ解説委員）

## 食物栄養学科「茂とゆかいな仲間達」

### 専門家から産業保健を学ぶ

食物栄養学科・田中ゼミでは、2日間かけて「働く女性のための産業保健ラボラトリー」の講演会および田中ゼミの卒業研究発表会」を開催。講演会は、1日目は「幅広い職業人の育成と就活に生かす方法」、2日目は「業務用厨房における労働安全衛生の問題解決」というテーマに沿って行われ、大学教授のほか、現場で働く管理栄養士などさまざまな分野の方に貴重なお話をしていただいた。

卒業研究の発表会では活発な質疑応答が行われ、難しい質問にも学生が自分の言葉で丁寧に回答。「現場で働く人の安全と健康を守る」重要性を幅広い観点から学べる、充実した2日間となった。

（取材・文・写真：今井友里子解説委員）

## 人間福祉学科「幸恵と愉快な仲間たち」

### 障がい者体験会を実施

人間福祉学科・新井ゼミでは、「もっと障がいについて知ってもらいたい」という想いから視覚・聴覚障がいに関する調査のポスター発表と障がい者体験会を実施。点字を打ったり、アイマスクをして白杖で歩いたりする視覚障がい者体験に加え、手話のレクチャーを行い、来場者が楽しそうに手話で会話する姿や、一生懸命に点字を打つ姿が見られた。

白杖で歩く体験をされた方は「恐かった。障がい者の気持ちがわかった」と体験を振り返った。

（取材・文・写真：小林いずみ解説委員）

## 社会情報学科「Jチーム」

### 人間力アップを目指し会社を設立!?

社会情報学科の授業「新規事業開発」の受講生6名により結成された「Jチーム」。学生時代にミニベンチャーを立ち上げ、会社組織、企画、開発、営業などの業務を実践することで「人間力の向上」を目的としており、少なくなったマニキュアをクッションに置くことで塗りやすくする「マニクッション」の企画製造・販売プロジェクトを実行している。

桐華祭では活動の報告や試作品の紹介を行った。代表のコミュニケーション学科4年・宮野夏佳さんは「後輩を増やして、これからもさまざまな事業に挑戦してもらいたい」と展望を語ってくれた。

（取材・文・写真：今井友里子解説委員）

## 「十文字ラジオ研究部」

### 十文字から笑いを発信

ラジオ番組収録の見学とパーソナリティー体験ができるブースも登場した。桐華祭で収録した番組は、多摩レイクサイドFMで放送された。パーソナリティ参加者には収録したものをその場でCDに焼いてプレゼントした。収録は質問を観客に投げかけながら進むコーナーもあり、会場が一体となり笑いも起きた。今年度の文化祭テーマである「笑」に相応しい楽しい時間となった。

（取材・文・写真：小林いずみ解説委員）

## 発表！ 2011年度「桐華賞」

### ～学長賞など8団体が栄誉の受賞～

桐華祭に参加した団体のうち特に優れた取り組みを讃える「桐華賞」が決定。学長室で賞状や楯、賞金が授与された。

| | | |
|---|---|---|
| 学長賞 | 文化展部門 | 華道部（生けた花の展示） |
| | 飲食店部門 | 食栄みちこのにんじん洋菓子店（にんじんスイーツの販売） |
| 埼玉県知事賞 | 第5代燃隊（学校安全についての研究、唐澤富太郎博士についての研究） | |
| 埼玉県教育委員会教育長賞 | スライムレンジャー（スライムづくりの体験） | |
| 埼玉県芸術文化祭実行委員会会長賞 | TEAM☆ANNIE2011（ミュージカル「アニー」の発表） | |
| 奨励賞 | J♡和太鼓（和太鼓の演奏） | |
| | おなかすいたっていいなさいよ！（焼き鳥、唐揚げの販売） | |
| | アリスのTea Party（ポテトもちの販売） | |



# 「十文字学」総合科目 冠講座を展開

## ～2012年度は前期3講座・後期3講座を開講～

学園創立90周年

昨年春に始まった「十文字学」の柱となる総合科目「冠講座」では、
企業人や有識者を講師に招いて講演していただいており
世の中を知る良い機会として多くの学生が受講しています。
人気を博す講座の24年度の内容をご案内します。

## 平成24年度 「冠講座」ラインアップ

### 前 期

**「新人物往来社」による** 水曜4限（14：40～16：10）

#### 「彩の国」を抱きしめて

［内容］新しい「ふるさと愛」を育み、東京と違う輝きを放つため、埼玉の本当の価値を今こそ見直したい。キーワードは、さきたま古墳群、武蔵武士、荻野吟子、秩父夜祭、そしてのぼうの城……。新人物往来社で発刊後、たちまち6刷を記録した『埼玉県謎解き散歩』の共著者らが交代で演壇に立ち、ダサイタマなどとおとしめられたマイナスイメージを払い去り、「埼玉」の懐の深さ、誇り高さ、たおやかさなど、正当な評価を受講者に語っていただきます。

［担当］大西正行教授

**「キングレコード」プロデュースによる** 水曜5限（16：20～17：50）

#### 音楽文化とビジネスの現場

［内容］学生の音楽ビジネスへの関心が高まる今、キングレコードと関係する企業のトップ、幹部、社員から直接、音楽文化とビジネスの魅力、著作権といった課題を学びます。「メディアの中の音楽」「音楽トレンドと展望」「キングレコードの歴史～現在」「CD制作現場とプロセス」「音楽企画作成実習」など幅広いテーマに向き合い、音楽業界で働くことの楽しさ・厳しさを、講義、企画、実習、見学を通して吸収します。

［担当］大西正行教授

**近現代をさかのぼる有識者の会発** 木曜4限（14：40～16：10）

#### お爺さんとお婆さんが語る日本の近現代史

［内容］学生にとっては自分の祖父母と同じ年代、まさに“お爺さん”“お婆さん”といえる各界の有識者を招き、江戸時代以降の近現代140年間で築きあげられた生活基盤や女子教育の変遷、都市構造の変化、官僚の役割などについて、生活に密着した切り口からお話をいただきます。また、変遷を目で見て確認するため、現場に出向く学外見学も実施します。

［担当］岡林正和特任教授

#### 地域に開放するリカレント教育

前期「『彩の国』を抱きしめて」「音楽文化とビジネスの現場」、後期「マスメディアの担い手～活躍する女性記者たち～」の3つの冠講座は、リカレント教育科目として一般開放しています。リカレント教育は、県内や近隣の大学の授業科目の一部を開放し、受講者の生活の充実や、社会参加のきっかけづくりとしていただくことが狙い。本学では55歳以上の女性を対象に開講しています。詳細は本学HPでご覧ください（http://www.jumonji-u.ac.jp/）。

### 後 期

**「野村證券」との連携講座** 水曜4限（14：40～16：10）

#### 証券会社の業務を中心とした金融

［内容］野村證券株式会社に協力いただき、証券など金融分野についてさまざまな視点から学習します。具体的には、金融全体、外国為替、日本経済の現状、証券会社の業務など、金融に関する幅広い分野の講義を行います。

［担当］込江雅彦准教授

**「毎日新聞社」が全面協力** 水曜5限（16：20～17：50）

#### マスメディアの担い手 ～活躍する女性記者たち～

［内容］毎日新聞社との連携講座。多様な領域で活躍する女性記者から、日々の体験にもとづいた話を聞くことで、新聞社の社会的使命を認識し、学生自身が自分の将来について考え、社会人になるための心構えなどを学ぶことが狙いです。女性記者が活躍する分野・領域は、社会、生活家庭、科学環境、学芸、編集、校閲、英字新聞、事業、書籍編集などさまざま。

［担当］橋本ヒロ子教授

**日本の有力企業発！トップが語る** 木曜4限（14：40～16：10）

#### 変貌する産業界への探訪

［内容］大きく変貌しつつある産業界の現状を、各産業界に精通されている企業トップの方々にわかりやすく解説していただきます。合わせて、企業トップとして女性社員に望むことも話していただく予定です。

［講師予定者］三菱自動車工業株式会社 益子修社長／三菱UFJリース株式会社 村田隆一社長／三井造船株式会社 加藤泰彦社長／株式会社ニコン 木村眞琴社長／日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社 渡辺正夫社長／トッパン・フォームズ株式会社 櫻井醍社長／山九株式会社 中村公一社長／大洋塩ビ株式会社 有馬雄造社長／キリンビール株式会社 磯崎功典社長（3月末就任予定）／日本生命保険相互会社 宇治原潔副社長／株式会社フジテレビジョン 嘉納修治専務／東急不動産株式会社 小倉敏専務／イオン株式会社 横尾博専務

［担当］岡林正和特任教授

若桐会だより

# 平成22年度 祝・同窓会 部会創立35周年！

## ――感謝を込めて記念行事を敢行

同窓会「若桐会」は昭和50年に
学部・学科別の部会が誕生し
平成22年度で部会創立35周年を迎えました。
これを祝い、一昨年から昨年にかけて
各部会で開催された記念行事の内容を報告します。

## 卒業生・教職員が集結 学科の特色を生かした華やかな行事に

――若桐会会長　濱口恵子

十文字学園の同窓会の歴史は昭和44年に始まりました。当時、十文字学園女子短期大学の家政科、幼児教育科の第一期生が卒業し、はじめての同窓会が開催されたのです。

ときを経て昭和50年、同窓会は学部・学科別の部会を設置。学園の発展とともに現在、部会の数12を数えるまでに拡大し、平成22年度に無事、部会創立35周年を迎えることができました。これもひとえに在学生・卒業生や教職員の方々など、十文字学園にかかわる皆様のご協力のおかげと深謝いたします。

部会創立35周年を祝い、各部会では学科の特色を生かした記念行事を開催しました。記念行事の計画に先立ち、皆様から楽しい企画やアイデアをお寄せいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

記念行事では母校を同じくする先輩・後輩、恩師、教職員の方々が肩を寄せ合い、情報交換やレクリエーションなどを満喫しつつ、楽しいひとときを分かち合い、親睦を深めました。

今号の若桐会だよりでは、その記念行事の一部を写真とともに紹介いたします。

### 部会創立35周年記念行事・活動

■国語国文部会
平成22年10月30日（土）
浅草橋 野田屋丸
「江戸文化を味わう～屋形船で落語を楽しむ～」

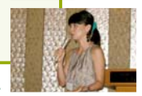
※当日は、台風3号が東京湾に上陸したため屋形船が欠航。前日までに準備した記念品や菜などを参加予定だった卒業生へ送り、大変喜ばれた。

■英語英文部会
平成22年6月27日（日）
ホテルオークラ東京
「第5回情報交換会」

Report

**69名が新たな学び**

恩師8名と、2期生から36期生までの同窓生61名が参加しました。第1部では、本学非常勤講師・吉原珠央さんが『今すぐ使える魅力的なコミュニケーション』をテーマに講演し、参加者は「口角が上がっているかしら」などと言いながら、明るい表情づくりを楽しんでいる様子でした。第2部では懇親会を開催。近況報告をしながら再会の喜びを分かち合いました。



講師の吉原珠央さん。



■家政・生活学部会
平成22年11月23日（火）11：00～
ホテルニューオータニ
「オシャレでエコな『ふろしき』講座と懇親会」

Report

**魔法の布・ふろしきに魅了**

京都和文化研究所「むす美」アートディレクターの山田悦子氏をお迎えし、参加者43名が魔法の布「ふろしき」の魅力に触れ、包み方・結び方を学びました。初めての経験の方も多く、初めは真剣な眼差しで取り組んでいましたが、一枚の布からさまざまなバッグに変化していく様子に一同感激！　とても充実した一日でした。

■食物栄養部会
平成23年2月13日（日）
如水会館
「食育に関する講演会とランチパーティ」（食物栄養学科共催）

Report

**昔を懐かしみ大盛況**

如水会館で食育に関する講演会を行った後、東京會舘の伝統あるフランス料理を楽しみながら懇親会を行いました。参加者55名が、懐かしい写真を見ながら思い出に浸り、先生方からはメッセージをいただきました。大盛会のうちに終了し、楽しい一日となりました。

■幼児教育部会
平成22年8月7日（土）9：30～／本学9417教室
「保育の基本～子どもの健康について考える～」
（幼児教育研修会後援）

Report

**保育について学ぶ一日**

午前は本学の先生による講演、午後には新座市の保健センター・児童センターの方をお招きして、パネルディスカッションを行い、多くの方にご参加いただきました。大変勉強になる一日でした。

■初等教育部会
平成22年8月29日（日）12：00～
十文字学園女子大学カフェテリア
「初教ティーパーティ」

Report

**卒業生たちの活躍を報告**

部会創立35周年に先立ち、平成21年10月に報告書「初等教育学科・卒業生たちのその後」を送付。そして35周年の記念ティーパーティを開催し、総勢47名がお互いの近況を話しつつ、再会を楽しむ和やかな会となりました。

■教養部会
平成22年10月31日（日）／東京都内
「懇親会バスツアー」

Report

**バスで都内周遊**

東京都内を巡る懇親バスツアーを実施し、21名が参加しました。途中、銀座の「レストラン花蝶」で昼食をとった後、風鈴作りを体験するなど、楽しい一日を過ごしました。

■社会情報部会・コミュニケーション部会
平成22年9月26日（日）11：30～14：30
八芳園
「プロから学ぶ和食マナー 作法と日本料理を堪能」

Report

**マナーを知り自分を磨く**

総勢66名が参加し、普段あまり知る機会がない和食マナーを学びました。旬の食材を生かした美味しい料理を囲み、参加された先生方や同窓生たちは近況報告に大いに盛り上がりました。

■人間福祉部会／人間発達心理部会／児童教育部会
名簿の整理と管理。部会活動の体制整備と、学科行事への協力など。

平成23年度

# 異文化を見て聞いて感じる！ 国際交流レポート

## ——十文字独自のプログラムに多くの学生が参加

**本学では国際交流センターを設置し海外からの留学生を含むすべての学生に、国際交流・異文化理解のプログラムを提供しています。世界を舞台に活躍できるグローバル人材を目指し多くの学生が貴重な経験を積んでいます。**

## 留学生別科「日本文化理解特別講座」を実施

### さまざまな視点から日本文化に触れる科目群

平成23年度の秋学期から始まった「日本文化理解特別講座」は、留学生があらゆる角度から日本文化に触れることで日本社会に慣れ、理解することを目的に設置された科目だ。

また、この科目は、「人々との交流や実体験を通してより深く異文化を理解できる」との認識から、言語をただ学習するだけでなく、体験型、参加型のスタイルで日本文化を理解できる講座となっている。授業の展開にあたっては、本学教員や地域の方々と交流を深めることに注力。学内だけでなく学外からも講師を招き、十文字学園の建学の精神にもとづき、「文化・社会について学ぶ」講座から「心身を鍛える」講座まで幅広い分野にわたって実施している。

（教授 小笠原典子 記）

**カリキュラム**

**第1回・第2回**
**日本の歌**
久保田葉子先生
［内容］ピアノ演奏・合唱

**第3回・第4回**
**日本の音楽**
加藤尊秀先生
［内容］津軽三味線・尺八演奏体験

**第5回**
**体を動かす**
児童教育学科　山本 悟先生
［内容］ゴルフ体験

**第6回**
**落語**
三遊亭円左衛門師匠
［内容］落語公演・体験

**第7回**
**国際俳句**
国語国文専攻　東 聖子先生
［内容］世界の俳句と俳句創作

**第8回**
**健康について**
食物栄養学科　森 三樹雄先生
［内容］生活習慣病予防を学ぶ

**第9回**
**米と日本酒**
英語英文専攻　福岡賢昌先生
［内容］日本の稲作と日本酒の関係を学ぶ

**第10回**
**女性詩人**
国語国文専攻　小林 実先生
［内容］詩人・茨木のり子の生き方に触れる

**第11回**
**日本のメディア～アジアへの展開**
メディアコミュニケーション学科
鈴木弘貴先生
［内容］流動化するアジアのメディアについて学ぶ

日本の音楽

国際俳句

健康について

米と日本酒

女性詩人

日本のメディア～アジアへの展開

**Pick up**

**第7回講座 国際俳句**

受講者はみんなにこにこ元気に俳句をつくってくれました。特に、漢字はアジアの文化であり、とても詩的ですてきな俳句ばかりでした。

（担当講師：東聖子）

新年に　爆竹がない　寂しさよ　タン（中国）
そらからは　ふわりふわりと　だんご雪　ヨケン（台湾）
あかい火で　あつあつやきいも　とても好き　ビムラ（ネパール）
冬の空　藍より青く　胸広く　カイ（中国）
クリスマス　子供たちの顔　花になる　ケイバイ（中国）
落ち葉はね　ハラハラ乱舞　きみはどこ？　キキ（中国）



## 受講者の声 ——唱歌「故郷（ふるさと）」を聴き母国を想う

### はじめての和楽器体験

リュウ キキさん

「日本の音楽」を受講し、尺八と三味線に初めて触れました。加藤尊秀先生は、和楽器の歴史や楽器の材料・制作過程などについて話してくださり、非常に興味深い内容でした。また、加藤先生の三味線と尺八の演奏を聴き、柔らかで美しいメロディーや含蓄に富んだ曲調から音楽の奥深さを感じました。

楽器の演奏体験は、私たちを最も興奮させました。特に尺八を演奏するのは難しく、「首振り三年、難しくて音が出ない」という先生の説明は印象に残っています。また、質のよい三味線は車も買えてしまうほどの価値があるということに驚きました。講座に参加して、ほかの楽器への興味も湧いてきました。日本の美しい伝統音楽の文化をこれからも大切に継承していってほしいと思います。

### 歌は国境を越え心を癒す

オウ ヨケンさん

「日本の歌」の授業では、日本の四季に応じてつくられたさまざまな歌を聴き、みんなで一緒に歌いました。久保田葉子先生はピアノ演奏も歌声もすばらしく、とても楽しい時間を過ごしました。

一番印象に残っている曲は「故郷」です。歌詞とリズムが大変美しく、中国の故郷が思い出されました。みんなで合唱をした後はグループにわかれ、各自思い出の曲を紹介することになりました。

私たちのグループは、ベートーベンの「歓喜の歌」を発表。世界中の小学校で教わる曲です。日本でもこの曲は有名で意味深く、年末によく歌われると聞きました。歌は国境を超え、心を癒してくれると強く感じました。

### 中国芸能との類似点を発見

チョウ カイさん

私は「落語」について勉強し、日本の落語は中国の伝統芸能である「単口相声（一人漫才）」と似ている部分があると感じました。

先生の落語を聞いてから、留学生も実際に落語を体験することになり、幸運にも私が体験者に選ばれました。ステージに置かれた高座の布団に座ると、緊張のあまり頭の中が真っ白になってしまいましたが、先生に助けていただき、なんとか演じることができました。

私の話を聴いて皆が笑ってくれたのでとても楽しかったです。

高座に上がったチョウさん

**Study Abroad Program**

## 「平成23年度夏期海外語学研修」帰国報告会

### 中国（初）・イギリスへ合計14名が短期留学

平成23年度夏期海外語学研修の帰国報告会が昨年10月6日（木）に学内で行われた。研修に参加したのはイギリスへ9名、初実施の中国へ5名。児童幼児教育学科2年の渡邊梨奈さん（イギリス／イーストアングリア大学で研修）と社会情報学科2年の粂佳恵子さん（中国／北京語言大学で研修）の司会のもと、パワーポイントを使用し、学生一人ひとりが独自の着眼点を持って活動を振り返った。どの学生も、外国でひと夏を過ごしたことによる自信にあふれていた。

報告会には横須賀学長をはじめ、教職員や学生も多数出席。発表を聞いた学生は「堂々とした発表から研修で得たものの大きさを感じた。中国、イギリスのどちらの発表も興味をそそられるものばかりで、来年はぜひ参加してみたいと思った」と語った。研修に参加した学生の体験談と帰国報告会の資料を綴った「帰国報告書」（左写真）も発行された。

生き生きとした表情で海外体験を語る学生。

## タイ研修をきっかけに始まった温かい交流

### 洪水被害にあった学生に応援メッセージ

2011年10月19日(水)、本学学生の自宅にホームステイしていた、タイ・バンコクのラチャモンコン大学の学生が来校した。ラチャモンコン大学と本校との交流は、2011年8月、本学の学生17名が海外研修で同大学に訪問したことが始まりだ。約1カ月間をともに生活し、互いの文化を学びながら交流を深め、研修の終わりには涙を流して別れを惜しんだ。

それから1カ月後、バンコクで7月末から続いていた洪水被害が深刻化した。日本企業にも影響がおよび、この被害によって現地では446名が死亡したと報じられている(2011年11月5日現在)。ラチャモンコン大学でも多くの学生が洪水の被害を受けた。研修に参加した本学の学生たちは応援メッセージを集め、彼らが本学に来校した際に渡した。

**◆メディアコミュニケーション学科1年 江田茉莉さんのレポート**

ラチャモンコン大学の学生は、日本の印象を「人が優しい」「ご飯が美味しい」などとうれしそうに話してくれた。中には「日本人は歩くのが速い」と笑いながら話す学生も。細かな部分まで日本を愛してくれていると感じた。

洪水については、「すごく恐かった」「今後のことが不安」と話した。和やかだった学生たちの表情が一変するのを見て、私たちのメッセージが少しでも励ましになればと思った。

8月にタイを訪れたとき、バンコク市内のデパートでは「ジャパンフェスティバル」という東日本大震災の復興支援イベントが行われていた。短冊には書き慣れない日本語で、「日本がんばって!」「日本、応援しています!」といったまっすぐな想いが綴られており、思わず涙があふれた。

小さな交流には大きな意味がある。何かを知り、誰かとつながり、誰かのために行動すること。今回の経験は、学生生活やこれからの将来に生かされていくだろう。そして、多くのことに挑戦し、形に残していくための原動力になるだろう。

本学学生から手渡されたパッチワークの激励メッセージ。

## 和光特別支援学校中学部が社会体験学習で来校

### 人間発達心理学科の学生がサポート

2011年11月16日(水)、埼玉県立和光特別支援学校中学部の社会体験学習が、人間発達心理学科の学生のサポートによって行われた。和光特別支援学校は、肢体不自由の障がいがある児童・生徒が通う学校である。今回は大学を知るための体験学習として来校。歓迎会では学生の企画によるレクリエーションなどが行われ、交流を深めた。また、学内の見学、カフェテリアでの食事など、一緒に貴重な体験をすることができた。

(特別支援教育センター 岩井雄一 記)

**◆人間発達心理学科・参加学生の声**

特別支援教育の経験や知識が少なかったが、事前に学校を見学したり、特別支援教育センターの先生方に助言をもらったりして、「子どもたちの目線に立つこと」を常に考えて準備を進めた。当日は、子どもたちのたくさんの笑顔を見られたことがうれしかった。

(3年 金井仁美)

特別支援学校の引率の先生方から、「生徒たちの表情がいつも学校で見るものと違う」と聞いて、この活動に参加できてよかったと実感した。特別支援学校の生徒との接し方などを学ぶことができた。(3年 村田彩)

人見知りする生徒を担当したが、手をつないで歩いてくれた。珍しいことらしく、担任の先生方に「すごい! 保護者の方に報告しなくちゃ!」と言われて本当にうれしかった。最後の見送りでも、自ら手を伸ばして握手をしてくれて涙が出てしまった。

(3年 中山未夢)

バスから降りてきた生徒たちをお出迎え。

歓迎会ではサンタクロースも登場した。

カフェテリアで大学のランチタイムを体験。

## 平成23年度本学名誉教授「称号記授与式」を開催

### 30名が新たに名誉教授に就任

2011年12月1日(木)、30名の先生に称号記が贈られ、新たに名誉教授が誕生した。称号記授与式後の懇親会は、それぞれの近況について語り合う和やかな時間となった。

**平成23年度名誉教授**(敬称略)

| | | | |
|---|---|---|---|
| 小林芳仁 | 湊 和夫 | 宮丸凱史 | 小布施圭佐三 |
| 岩佐幹三 | 松本 進 | 関口はつ江 | 伊藤わらび |
| 芦葉浪久 | 溝口睦子 | 山口佳也 | 若山皖一郎 |
| 狩野敏也 | 難波康之祐 | 中佐古 勇 | 鎌田恒夫 |
| 志村尚夫 | 髙橋恵美子 | 萩原昌好 | 星(渡邊)三和子 |
| 木寺博子 | 笹子謙治 | 佐藤文代 | 西澤喜代美 |
| 相場 了 | 髙橋朋子 | 藤野紀男 | |
| 立川多恵子 | 髙橋眞琴 | 鶴木 眞 | |

本学に貢献された先生方が一堂に会した。

式典であいさつを述べる十文字一夫理事長。

## 子ども大学を開催、Jリーガーと夢を語る

### 白熱した経営シミュレーションゲーム

2011年10月22日(土)、23日(日)、本学で「子ども大学にいざ」の第3回・第4回講義が行われた。22日の講義は、元Jリーガーの中西哲生氏を招いて、子どもたちが将来の夢を発表した。自分の言葉で一生懸命に夢を話す子どもたちの表情が印象的だった。

翌日の講義は「ビジネスゲームで利益を上げよう」。チーム対抗で果物屋の経営シミュレーションゲームを行った。売上が多いチームには賞金が出ることもあり、ゲームは白熱した。チームで決めた仕入れ数が的中して、ハイタッチして喜ぶ姿も。当日は本学の桐華祭でもあり、賞金は模擬店での買い物に使い、皆で分け合った。経営の難しさと楽しさを体験する機会となった。

(取材・文:大嶋理恵記者)

子どもたちは自分の夢をボードに書き込んだ。

シミュレーションゲームの説明を熱心に聞く子どもたち。

## 新座市健康まつりで骨密度測定コーナー

### 本学学生が来場者の測定を担当

食物栄養学科公衆栄養学・長澤伸江ゼミの3年生6名が、第31回新座市健康まつりで骨密度測定コーナーを担当した。60~70代を中心とした女性151名、男性30名、計181名を測定して結果を説明し、骨密度を高める食事に関するリーフレットを配布。熱心に説明を聞いたり、質問する方もいて、学生たちはやりがいを感じたようだ。

骨密度は、踵骨に超音波を流し、骨内伝播速度と年齢によって判定する。男性の93・3%、女性の39・0%は健常値だった一方、女性の19・2%は低骨密度で骨粗鬆症が心配された。今回の結果が健康や食事に気をつけるきっかけになれば幸いだ。学生にとっても、地域住民の方々と触れ合いながら、栄養教育の一端を経験できて、有意義な時間となった。(教授 長澤伸江 記)

骨密度を高める必要性を丁寧に説明。

## 国語国文専攻の学びがますます充実

### 新たに日本語検定にチャレンジ

短期大学部国語国文専攻の学生たちは、漢字検定、硬筆書写検定、ハングル能力検定のほかに、昨年から日本語検定など、多様な資格の取得に挑戦している。今年は星野祐子先生が検定直前講座を担当。また、OG講座として声優の卵・安川美希さんの「朗読講座」を行い、アニメーションのアフレコも体験して盛り上がった。課外活動は、演劇鑑賞や美術館見学などに加え、赤間ゼミでは『源氏物語千年の恋』の映画鑑賞に出かけた。短期大学部は、来年度から「表現文化学科」の1学科制がスタートする。

新体制でも引き続きさまざまなことに挑戦していきたい。国語国文学会はしばらく活動を休止するが、学会誌『十文字国文』のバックナンバーがほしい方は国文研究室まで。

## 表現文化大賞の作品を公募

### テーマは「再生」。ゆるキャラも募集

本学短期大学部は平成24年度に「表現文化学科」を新設する。これを記念して昨年、全国から「跳ぶ」を象徴する絵や文章などの作品を公募して「表現文化大賞」を開催した。今年行われる第2回目の公募は、3月から5月末まで受け付ける。詳しくは2月、短期大学部のホームページに掲載予定。感性を生かしたたくさんの作品をお待ちしている。

**短期大学部 第2回「表現文化大賞」公募要項**

**部門**
① 表現文化学科のキャラクターを描く
②「再生」をテーマに、詩を書く

**公募期間**
2012年3月1日～5月末日

**対象**
全国の高校生、本学大学生・短大生、本学全卒業生

**応募先**
短期大学部研究室

## 「イモプロ」が大躍進！

### 学生考案スイーツの収益を東北へ

昨年の5月、学生5名が新座産のサツマイモで地域活性化を図る「イモプロ」をスタートさせた。「イモプロ」の使命は2つ。1つ目は、サツマイモの焼酎「指月喝（しげつかつ）」を新座市の特産品にするため、栽培に協力すること。2つ目は、サツマイモを使った新商品を開発・販売し、収益を東日本大震災の義援金として東北へ贈ること。12月には「指月喝」が完成し、商品タグに学生の取り組みが掲載されることになった。また、さまざまなイベントで学生が考案したサツマイモのスイーツ「スいーも」を販売。収益の21万40円を義援金とし、2月に学生5名が東北へ届けに向かう。

## 「110番の日 講演・実演」を開催

### 新座警察署が迅速な通報を促す

1月10日（火）の110番の日に、本学で新座警察署および本学防犯リーダー・学生支援企画委員会主催の「110番の日 講演・実演」が行われ、100名を超える参加者でにぎわった。講演では埼玉県警のマスコットキャラクター「ポッポくん」と新座市のイメージキャラクター「ゾウキリン」が、寸劇で110番通報のしかたを紹介。高野邦夫署長は、「何かあればただちに110番通報すること」「犯人の特徴や逃げた方向をなるべく覚えておくこと」を心がけてほしい、と話し、110番通報の大切さをあらためて学んだ。

（取材・文：川島桃子記者）

講演後、埼玉県警察音楽隊が演奏。

## 免許状更新講習のお知らせ

### 平成24年8月に講習を実施

教員免許更新制は、教員が定期的に最新の知識技能を身につけることで必要な資質能力を保持し、社会の尊敬と信頼を得られるよう、平成21年4月に導入された。本学でも平成21年度から講習を実施し、多数の卒業生が受講している。平成24年度の予定は、必修講習が8月1日（水）・2日（木）の2日間、選択講習が8月3日（金）・6日（月）・7日（火）の3日間。受講対象者、内容等の詳細は3月以降本学のホームページまたは募集要項でご確認願いたい。

＊日程等の予定は変更になる場合あり

［お問い合わせ］
学生SSセンター・教職支援室
E-mail:kyosyoku@jumonji-u.ac.jp
TEL：048-477-0579

## ● 学位記授与式のご案内 ●

大学、大学院、短期大学部、留学生別科合同で学位記授与式を執り行います。どうぞご参列ください。

**日時** 平成24年3月19日（月）10時30分
※卒業生は10時10分までに所定の席に着席

**会場** 本学 記念ホール2階　メインアリーナ

・駐車場のご用意がございませんので、公共の交通機関をご利用ください。
・来場者多数の場合は別会場をご案内し、TV中継をご覧いただくこととなります。
・式次第などは、当日配布します。
・式（約1時間）終了後、各学科の集いおよび卒業記念写真撮影があります。学科、専攻により終了時間は異なりますのでご了承ください。また、当日、7号館1階カフェテリアおよび隣接するグラウンドにて、卒業を祝う全体会が計画されています。立食形式で軽食程度ですが保護者の方もご参加いただく予定です。

## もこやんと始める冬の節電

### 省エネキャラクター「もこやん」が登場

本学では、平成23年度冬期も引続き東北の被災地復興に配慮。さらに、停電を防ぐためにも、無理のない範囲での節電が求められていることから、省エネ推進プロジェクトがオリジナルキャラクター「もこやん」を使用した節電ハンドブックを制作。全学生および教職員へ配布し、節電キャンペーンを行っている。ハンドブックでは、冬の電力使用事情をはじめ、節電を意識した教室の使用方法、暖かく過ごすためのちょっとしたアイデアなどを紹介している。

（総務課長 柳澤貞夫記）

『もこやんとはじめる冬の節電ハンドブック2011～2012』

省エネキャラクター「もこやん」。

## 大地震を想定し避難訓練を実施

### 安否確認システムを新たに導入

本学では、授業時間中に大地震が発生したことを想定し、今年度2回目となる避難訓練を10月13日（木）に実施した。今回は、大地震発生時に学内各所から避難するにあたり、経路、障害物の有無などを検証し、建物や放送設備ならびに避難誘導を行う際の改善点などを確認。また、避難訓練実施にあわせて新たに導入した「安否確認システム」の試験運用を行い、不具合がないか、検証を行った。

（総務課長 柳澤貞夫記）

校庭に整列する学生たち。

## Diary

# 就職活動奮闘記

### ～就職ゼミ合宿／就職ゼミ・合同集団面接大会～

社会情報学部
コミュニケーション学科3年
水野 遥

**本学の就職支援の一環として昨年12月に実施された就職ゼミ合宿と面接大会。参加した学生の中から水野遥さんのレポートをお届けします。**

12月3日（土）・4日（日）に国立女性教育会館で行われた就職ゼミ合宿に参加しました。

初日は4人1組で集団面接の模擬練習を繰り返し行いました。その様子をビデオカメラで撮影し、参加したみんなで確認。振り返りの時間では、映像をもとに、講師である白井章詞先生やキャリアセンターの方々から評価や改善ポイントの指導を受けました。

翌日は、企業研究を進めるうえでのポイント整理、グループディスカッション、模擬面接を実施。1日目に比べ、参加した学生一人ひとりのステップアップした様子がうかがえました。

その後、12月10日（土）に他大学と合同で行われた「就職ゼミ・合同集団面接大会」に参加し、この2日間で習得したことを早速生かすことができました。面接官とのやりとりでは、「内容を簡潔に、まずは結果から伝えること」を意識。また、実際に企業で働いている方々から直接アドバイスをいただき、大変参考になりました。他大学の学生と交流を深めることもできて、充実した一日となりました。

❶ 講師の説明に耳を傾け、メモをとる受講生。
❷ 合宿での模擬面接の様子。

❸ 合宿での学びが自信につながり、表情も柔らかくなりました。
❹ 面接大会には他大学の学生も多く参加。

# Admission Info ——〈最新入試情報〉

**チャンスはまだまだこれから！**

3月に出願できる入試は次の通りです

## ◎平成24年度 入試日程

### 一般入試

#### D日程

| 学部 | 学科 | 募集定員 | 出願期間 | 試験日 | 合格発表 |
|---|---|---|---|---|---|
| 人間生活学部 | 人間福祉学科 | 2名 | 郵送：3月1日（木）～3月13日（火）　必着<br>窓口：3月14日（水）　9：00～12：00 | 3月17日（土） | 3月20日（火） |
| | 生活情報学科 | 5名 | | | |
| | メディアコミュニケーション学科 | 5名 | | | |
| 短期大学部 | 表現文化学科 | 10名 | | | |

### AO入試

#### 対話型・有資格者型AO入試

| 学部 | 学科 | エントリー期間 | 面談日 | 選考内容 |
|---|---|---|---|---|
| 人間生活学部 | 人間福祉学科 | Ｖ期<br>郵送：2月10日（金）～<br>3月15日（木）必着 | 個別に連絡 | ①エントリーシート<br>②面談<br>③レポート<br>※有資格者型はレポート免除 |
| | 生活情報学科 | | | |
| | メディアコミュニケーション学科 | | | |
| 短期大学部 | 表現文化学科 | | | |

★面談では、希望学科の教育内容や特色・資格などについての理解を確認します。
また、志望理由や将来の希望などを話していただきます。皆さんの考えを面談を通じて伝えてください。

#### 課題型AO入試

| 学部 | 学科 | エントリー期間 | 課題・面談日 | 選考内容 |
|---|---|---|---|---|
| 人間生活学部 | 幼児教育学科<br>児童教育学科<br>人間発達心理学科 | 郵送：2月25日（土）～<br>3月12日（月）　必着 | 3月17日（土） | ①エントリーシート<br>②面談<br>③幼児：作文・話し合い<br>児童：表現活動<br>心理：小論文 |

**Check!** 入試説明会　平成24年2月23日（木）・3月8日（木）13：00～／本学新座キャンパスにて／事前予約は不要

### 編入学入試

| 学部 | 学科 | 募集定員 | 出願期間 | 試験日 | 合格発表 |
|---|---|---|---|---|---|
| 社会情報学部 | 社会情報学科 | 5名 | 郵送：3月1日（木）～3月13日（火）　必着<br>窓口：3月14日（水）　9：00～12：00 | 3月17日（土） | 3月20日（火） |
| | コミュニケーション学科 | 5名 | | | |
| 人間生活学部 | 人間福祉学科（社会福祉コース） | 5名 | | | |

★人間福祉学科社会福祉コースについては、社会福祉士国家試験受験資格取得が可能です。

**◆オープンキャンパス**

日時：平成24年3月25日／4月22日／5月27日いずれも日曜／13：00～16：00
場所：本学新座キャンパス。事前予約は不要。

**◆学校見学**

随時受け付けています。事前予約は不要。
［月～金］9：00～17：00
［土］9：00～12：00
※日祭日は除く

《お問い合わせ》　募集・入試センター　☎：0120-8164-10



# Extension News

## 平成23年度公開講座レポート

今年度も多彩な公開講座を開催。多くの方々にご参加いただきました

本学の大学開放・地域連携推進センターでは、今年度も学科が主催する公開講座、桐華祭講演会、小学生対象の「子ども大学にいざ」、彩の国大学コンソーシアム主催の講座など、多彩な「学びの場」を提供してまいりました。中から一部、講座内容や会場の様子をご報告します。

### ▌国語国文学会講演会

2011年5月に「異文化を生きる　日本から韓国へ・韓国から日本へ」をテーマに講演会を実施しました。

### ▌生活情報学科公開講座

2011年5月～2012年2月にわたって開催された「生活に役立つ情報講座」（前期・後期／全6回）では、実習形式のパソコン体験講座に加えて、講義形式で学習する「今、日本市場で何が起きているか」「若者の『つながり』をつくるNPOカタリバの10年―学校に社会をとどける活動とは―」を実施。普段の生活ですぐに役立てられるパソコン講座と、タイムリーな内容の講演は大変好評でした。

### ▌食物栄養学科セミナー

2011年10月に「食育セミナー～食の専門家の視点から学ぶ～」を実施しました。

### ▌短期大学部文学科英語英文専攻公開講座

2011年12月に開催した公開講座では、「海外を目指せ！ 輝くフィールドはグローバル！」をテーマに、本学の福岡賢昌専任講師が、統計的な資料を交えながら日本の現状をわかりやすく解説。若い世代に向けて「グローバルな視野と、ある程度の語学力を身につけ、クリエイティブな挑戦者であってほしい」というメッセージを送りました。

### ▌桐華祭特別講演会

2011年10月の桐華祭では、スポーツジャーナリストの中西哲生氏をお招きし、講演会「サッカーとスポーツの未来～スポーツと社会のつながり～」を開催しました。

### ▌新座市内大学公開講座

新座市教育委員会との共催で開かれた公開講座（全4回）のテーマは「高齢期の心豊かな生活のために」。2011年11月～12月にかけて開催され、第1回の「着物と私」では、英語英文専攻のシーラ・クリフ准教授が、自身の着物とのかかわり、海外で進めている着物の紹介活動について、多くの美しい写真とともに説明しました。第2回「高齢者のためのパソコン教室」では、メディアコミュニケーション学科の角田真二教授が、初心者が気軽に楽しめるインターネットの使い方を指導。第3回「楽しく食べて、いきいき健康」では、食物栄養学科の服部富子教授が食べ物と健康の関連性をわかりやすくレクチャーした後、同学科の木村靖子専任講師が、実習指導。第4回「高齢期の住まいと福祉文化」では、人間福祉学科の安岡芙美子教授、新井幸恵教授が、身近な実例を挙げて丁寧に解説しました。

どの講座も参加者のニーズに合った内容で、「参加してよかった」との感想を多くいただきました。

### ▌彩の国大学コンソーシアム公開講座

国語国文専攻の小林実専任講師が、2011年9月に「明治の新聞でよむ西郷隆盛生存伝説」と題した講座を実施。豊富な資料をもとにした解説に参加者は熱心に耳を傾けました。

新座市内大学公開講座
第1回「着物と私」

新座市内大学公開講座
第3回「楽しく食べて、いきいき健康」

生活情報学科公開講座
第5回「表計算ソフトウェア活用講座」

平成24年度の公開講座の詳細につきましては、本学ホームページまたは『新座だより』をご覧ください。ご案内パンフレットをご希望の方は、大学開放・地域連携推進センターまでご連絡ください。

大学開放・地域連携推進センター
TEL：048-477-0958（直通）
FAX：048-477-0764
E-mail：ext@jumonji-u.ac.jp